

申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	島田 清徳	印
調査研究課題	体験型展覧会構築のための実践的研究						
交付決定額	200,000 (円)						
調査研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担		
	代表	島田 清徳	デザイン学部 造形デザイン学科 准教授	テキスタイル	研究作品の制作と発表 展覧会の構築		
	分担者						
調査研究実績の概要	<p>【研究の目的】 過去およそ10年間に渡り、国内の現代建築や国外の歴史的建造物においてテキスタイル造形を用いた空間表現の可能性を研究してきた。平成25年度の研究においては、これまでの研究成果をふまえた上で、『視覚障害者を含むすべての鑑賞者が身体感覚で楽しむ体感型展覧会の実践研究』をテーマとした空間への新たな表現方法の構築に向けて、実験的作品の制作と発表を実施した。</p> <p>研究の最終段階としては、平成26年度末～平成27年度初頭にかけて、岡山県立美術館との協働による「体感すること」を基軸とした展覧会の構築を計画している。これは主に視覚で鑑賞する通常の展示形式とは異なり、皮膚感覚や聴覚を通して作品に触れながら鑑賞するための展覧会を構築することを目的としている。</p> <p>【実績の概要】 下に示す3つの研究作品において、9m → 15m → 26mと、作品のサイズを徐々に大きくしながら、また、空間の性質や形状の変化に対応させながらテキスタイル造形による空間表現の可能性を探った。</p> <p>高さ2.4mの平面作品の全面を壁面に密着させるのではなく、上辺中央部を大きく鑑賞者側に迫り出すことにより、鑑賞者は作品全体と一定の距離を保ちつつ作品の一部と非常に接近することとなる。この展示方法により、鑑賞者の意識とは関係なく「作品」と「鑑賞者」との距離感が極めて曖昧になり、鑑賞者が意図せずとも作品に近づき触れるという状況を演出することができた。</p> <p>来年度はこれらの成果をさらに発展させ、鑑賞者が空間と作品を体感するための作品と空間構成を導き出し、研究成果として公開する予定である。</p>						

調査研究実績
の概要

1. 「タク テキスタイル展」 実験的作品の制作及び展示公開

開催場所：成安造形大学ギャラリー（滋賀県）

開催年月：平成25年9月 主催：成安造形大学



作品サイズ：約9m（壁面1面）

「鑑賞者」と「作品」との距離感を曖昧にするための展示方法を試みた。

2. 「あかいわ ART RALLY」 実験的作品の制作及び展示公開

開催場所：ギャラリー99/13（岡山県赤磐市）

開催年月：平成25年10月 主催：あかいわART RALLY実行委員会、岡山県



作品サイズ：延べ約15m（壁面3面《5m×3》）

鑑賞者の周囲を作品で囲むことによる演出を試みた。

3. 「folding cosmos展」 実験的作品の制作及び展示公開

開催場所：香川県文化会館（香川県）

開催年月：平成25年12月 主催：folding cosmo実行委員会



作品サイズ：延べ約26m（壁面3面《14m、8m、4m》）

異なるジャンルの作品や点茶とのコラボレーションを試みた。

<平成26年度以降に向けて>

平成27年3月14日から岡山県立美術館で開催を予定している展覧会「目の目 手の目 心の目 体感の向こうに広がる世界」のため、岡山県立美術館と打合せを進めており、平成26年3月25日に全出品者及び美術館学芸員による会議を実施した。「見る・触る・体感する」を軸とし、視覚障害者のための美術教育プログラムも視野に入れながら、展覧会・ワークショップ・出張講座等の計画を進展させる予定である。

成果資料目録

「タク テキスタイル展：リーフレット」「あかいわART RALLY：リーフレット」
「folding cosmos展：案内状」「岡山県立美術館2014年度展覧会：年間スケジュール」